

坂口 憲一郎 情報

坂口 憲一郎 (岡山 ハソウを楽しむ会)

- 2025年4月記 -

「59年の思い」

この3月で、NHK ラジオ深夜便での番組制作の仕事に区切りをつけた。放送に関り59年、、、、1966年、アナウンサー採用され、初任地は、広島県の尾道放送局。尾道水道を見下ろす千光寺山の山頂にあり、高い放送鉄塔と桜の名所の観光地でもある。「海が見える、海が見えた、、、」の林芙美子の小説「放浪記」でも知られ、尾道水道を隔てた向島の造船所から「カーン、、カーン、、」と作業音が聞こえたものだ。志賀直哉の「暗夜行路」や映画監督、大林宣彦が、地元を舞台に、「時をかける少女」「転校生」など、尾道3部作を制作している。尾道は、平安時代から荘園のコメ積出港で栄え、歴史と伝統の残る狭い地域に、24もの由緒ある寺が立ち並ぶ。

戦時中、向島の造船所で、強制労働の英連邦捕虜が亡くなっていたことを知ったのは、高知、旭川、岡山と転勤を重ねた岡山で、日本軍通訳をしていた倉敷市の永瀬 隆さんを知ったのがきっかけだった。戦後50年の1995年、永瀬隆さん、青山学院大学教授の雨宮剛さん、国際基督教大学副学長の齊藤和明さんの呼びかけで英連邦捕虜追悼礼拝が、30年を超えた。毎年、8月の第一土曜日、午前11時から、横浜市保土ヶ谷区狩場町の英連邦戦死者墓地で行われている。永瀬さん、雨宮さん、齋藤さんの3人から託された戦争反対の強い思い、、、「平和へのメッセージ」が、世界へ発信されている。

なぜ、横浜保土谷の英連邦墓地で、英連邦捕虜追悼礼拝が行われているのか、、、

第2次世界大戦中、「生きて虜囚の辱めを受けず、、」命を捨てても国の為に尽くすという教え、、日本兵は捕虜になることを許さずという、、、ジュネーブ協定無視の捕虜取り扱いがあった。戦時中、連合軍捕虜など約3万人が日本に送られ、2万人が、国内130か所の捕虜収容所で、炭鉱、鉱山、造船、ダム建設など強制労働に駆り立てられた。そして日本国内の空襲、原爆なども含め、約3000人が死亡。1800人ほどが、保土谷英連邦墓地に眠る。この事を、私が知りえたのも、英連邦捕虜を調査した方々がいたからだった。日本国内に、130か所の捕虜収容所があった等、教科書で習うことはなかった。

一方、オーストラリアのカウラ捕虜収容所では、日本軍捕虜が「生きて虜囚の辱めを受けず、、」の教え通り暴動を起こし、231人が死亡。オーストラリア兵も4人死亡。南方戦線で餓死寸前の日本兵が捕虜収容所で食料を与えられ、健康を回復。野球などが許され、元気になり、暴動、、、思いもよらぬ事だった。戦後、カウラでは、オーストラリア戦死者墓地の隣に、日本兵の墓地をつくり、慰霊をしていることを知った永瀬さんが、英連邦戦没捕虜追悼礼拝を呼びかけたのだ。

英連邦捕虜追悼礼拝が、30年を超えた。日本行く末を心にかけていた永瀬さん、雨宮さん、齊藤さん、毎年、追悼の辞を述べてこられた関田寛雄さんも、今は亡い。雨宮剛さんが遺された「私には夢がある。追悼礼拝が、日本人の良心の発信地として、百年後も、継続されることを夢見る」を大切にしたい。自分に、今、何ができるのか。80年間、戦争を起こさなかった日本に誇りをもって、小さなことでも、残り少ない人生を、積み重ねたい。

思い起こせば、多くの人々の助けや協力があったの59年だった、、、

NHK 入局後、25年。初めて東京での勤務。配属されたのは、ラジオ制作(のちのラジオセンター)遊軍班。何かあったら現場へというセクション。この頃、ラジオ深夜便が始まり、その担当が、遊軍班だった。

地方局25年経験の私が、新入社員を除き、なんと最若手。報道番組、芸能番組、教養番組など、弁のたつ、クセのあるディレクターばかり、、、

島原雲仙普賢岳の噴火災害、阪神淡路大震災、中華航空墜落事故など、何か起これば、すぐ現地に駆けつける報道中継番組から宮沢賢治ゆかりの種山が原での星空観察会や徹夜の夜神楽など様々な出来事に飛び込み、あっという間の5年間だった。その間、国会記者証まで与えられ、その威力にびっくりした事。今は許されないことだと思うが、世の中には、いろいろ特権があることを知る。国際局移動後、オーストラリア大使館の首相訪日パーティー、イギリス大使館でのエリザベス女王誕生パーティー招待など様々体験できたのも、人を知りえた幸運と好奇心、腰の軽さだったのか。

これは、深夜便で、当時、新進気鋭の社会学者、上野千鶴子さんに教わった言葉。社会学とは何か。社会学に大事なことは何かと質問したら、彼女は。「1に体力、2に好奇心、3、4が無くて、5に腰の軽さ」と言ったのだ。単純な言葉だが、、示唆に富んでいると、、私は、それ以来、呪文のように唱えている。体力は、健康が基になる。健康なところで、好奇心旺盛に、毎日を過ごすことにしている。

仕事に区切りをつけ、足腰が弱るのを防ぐため、毎日の散歩は、欠かせない。隣近所を散歩し、道に生える草花やよその庭の花や木を見て、、、つくづく思うのは、人間は、植物に生かされているのだなあと感じる。「植物さん、ありがとう、ありがとう」と心で唱える。

此れまで、多くの人の助けや協力で生きて来られた事に、感謝、感謝というしかない。

皆さん。ありがとうございました。

これまで、深夜便でお話を伺った方々は、200人を超える。数々の人生勉強をさせていただいた。

4月24日(木)には ~100歳一人暮らし~ 石井哲代さん(現在102歳)

5月13日(火)14日(木)は ~母の遺した我が家の歩み~ 小澤幹雄(小澤征爾の弟)さん

6月11日(水)は介護講談の 田辺鶴英さんの再放送が、いずれも午前1時台に予定されています。

聞き逃しサービスでも聞くことができますのでお聞きください。

編集室から



坂口憲一郎さんは、2025年3月をもってNHK ラジオ深夜便ディレクターを退任なさるとのお知らせを、ご本人から頂戴しました。坂口憲一郎さんと唐丹希望基金との交流を振り返りますと、深い感謝の念が湧いて参ります。今回配信No100をもって、坂口情報の配信を終了させていただきます。皆様の健康とご活躍を祈りつつ。。。有り難うございました。 高館千枝子

『坂口憲一郎情報』配信までの道のり

1) NHK ラジオ深夜便出演

① 2015/1/7 「ことばが広げる世界の絆」

一般財団法人 日本エスプラント協会 前副理事長 堀 泰雄 (唐丹希望基金 副代表)

② 2016/3/3 「世界へ広がれ 鎮魂の歌」

唐丹希望基金代表 高館千枝子

2) ハソウと共に歌う「鎮魂の歌」と講演会

2016年7月6日(水)「長善寺仏教婦人会研修」

3) 「はそうプロジェクト」発足 2016年年9月